

## 1 研究主題

一人一人の思いを大切に、自ら考え主体的に学ぶ力を育む指導のあり方を求めて  
～ 小規模校のよさを生かし、伝え合う力を高める指導の工夫 ～

## 2 めざす児童像

「自分で考え、相手の意見を認め、わかりやすく思いを伝えることができる子ども」

低学年 《人の話をきちんと聞き、自分の考えを伝えようとする子ども》

↓ 《相手の発表と自分の考えを比べ、相手に分かりやすく伝えようとする子ども》

高学年 《周りの人の思いを受け入れ、自分の考えを伝えながら、高め合うことができる子ども》

## 3 研究の仮説

【仮説1】 学習の「めあて」を明確にし、自分や友達の考えを分かりやすく伝える支援を工夫すれば、毎時間の知識・技能をきちんと身に付けることができ、自分の思いをしっかりとち、進んで学習に取り組めるようになるであろう。

【仮説2】 一人学びや友達と発表し合う活動を工夫すれば、子どもたちは自分の意見を相手に分かりやすく伝えようとし、相手の気持ちを大切にしながら、互いの思いを真剣に考え・判断し・表現しながら、伝え合う力の質を高め合っていけるであろう。

## 4 研究の重点

- **基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせる支援方法の工夫**
  - ・「めあて」の提示の工夫
  - ・学習計画の提示と、学習の進め方の確認
- **日常活動の工夫・実践**
  - ・職員間の共通理解による実践の徹底
  - ・子どもたちが安心して学習できる環境の構築
  - ・一人一人の児童を理解し、個性を認めながらあたたかく支援できる教職員の姿勢
- **自ら考え・自己を表現することができ、主体的に学習に取り組もうとする意欲を養う工夫**
  - ・考えをもつための「まっにし学習」の工夫
    - あ・・・まず読む（大事なところに線を引きながら読む。難語句の意味を調べる）
    - い・・・つぎに書く（考えや感想、意見、疑問などを書き記す）
    - え・・・じっくり話す・聞く（友達と向かい合って、書き記したことを伝え・認め合う）
    - お・・・しっかり考える（伝え・認め合ったことを話し合い、練り上げ、まとめる）
- **伝え・認め合い、自己を表現する場における支援の工夫**
  - ・分かりやすく、関心をもてる発問の工夫
  - ・話し方、聞き方、話し合いの仕方マニュアルの活用
  - ・グループ活動を活発にするための学習形態の研究
- **家庭との連携**
  - ・生活時間の把握と改善に向けての啓発
  - ・家庭学習の習慣化と自主的な学びの姿勢の研究
  - ・基礎・基本を定着させるための反復練習の場の確保
  - ・親子読書や読み聞かせによる、子どもたちの自発的な読書と家族団欒の場の啓発